

# ア ラ オ シ 荒尾市

総人口…48,821人 男…22,970人 女…25,851人 世帯数… 20,561世帯  
(人口構成比) 15歳未満…12.1% 15～64歳…50.8% 65歳以上…37.0%  
※データは令和6年7月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。



浅田 敏彦 市長

荒尾市が目指しているのは市民が誇りを持って「荒尾市に住んでよかった」と実感していただけるまちづくりです。そのように思える市民が一人でも増えるよう、先端技術も活用しながら快適で暮らしやすいまちをつくっていきます。そして、民間事業者・学術研究機関との強力なパートナーシップで、「暮らしたいまち日本一」を実現していきます。荒尾市の取組にご賛同いただける企業様からのご支援を、心よりお待ちしております。



- 寄附御礼**
- ・贈呈式開催(首長出席、寄附額30万円以上)
  - ・感謝状贈呈(寄附額30万円以上)
  - ・地公体広報誌掲載
  - ・HP掲載
  - ・視察受入
  - ・功労者表彰推薦(寄附額100万円以上)
  - ・紺綬褒章推薦
  - ・その他

## 新しい民間企業の技術・ノウハウを積極的に活用したい政策課題・取り組み



カテゴリー4 児童福祉

### 魅力ある子育て環境に向けた取り組み

本市の出生数は平成26年以降400人台前半を維持していましたが、令和に入り減少傾向にあり、令和4年は280人となっています。希望する数の子どもを持つことができるような支援や魅力ある教育環境を整備する必要があります。



中学校による英検チャレンジの風景



カテゴリー2 過疎対策・定住移住

### 若い世代を中心とした移住定住の推進

若い世代を中心とした定住人口の増加に向け、子どもたちの郷土愛の醸成や転出後も引き続き市とのつながりを持つことでUターンを増やし、また、継続的に多様な形で関わりを持つ「あらおファン」を増やして活用していくことが必要です。



お試し暮らし体験住宅の室内

## 荒尾市まち・ひと・しごと創生推進計画

### あらお未来プロジェクト

基本目標

1

#### 切れ目のない充実した子育て環境をつくる

結婚希望の実現を後押しするとともに、妊娠から出産・子育てに至るまでのニーズに合わせた切れ目のない支援をおこなっていきます。

基本目標

2

#### 誰もが繋がりをもち健康でいきいきとした暮らしをつくる

多様性を尊重した地域共生社会の実現を目指すとともに、市民が心身ともに健康であり、生きがいを持って生活できるようにしていきます。

基本目標

3

#### あらおファンを増やすとともに移住しやすい環境をつくる

本市と継続的に多様な形で関わる人を「あらおファン」と位置づけ、その拡大を目指すことで、最終的に移住につなげていきます。

基本目標

4

#### 先進的で持続可能なまちをつくる

人口減少下においても生活に必要な機能を持続的に確保するため、先端技術の活用による日常生活の利便性向上や暮らしの質の向上を目指していきます。

## 荒尾市

重点プロジェクト

### あらお海陽スマートタウン整備事業 およびスマートシティ推進事業

(SDGs)関連するゴール



総事業費 7,500,000千円 寄附目標額 10,000千円

- 数値目標
- 荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合… 2019年 71.8%→2025年 80%
  - 居住誘導区域内の人口密度… 2019年 43.1人/ha→2025年 42.3人/ha

現在、競馬場跡地を活用し、「あらお海陽スマートタウン」を整備中です。コンセプトは「ウェルネス」であり、道の駅と保健・福祉・子育て支援施設の複合施設である「荒尾市ウェルネス拠点施設」を中心拠点として、JR荒尾駅周辺と一体的に新しいまちづくりを進めています。

スマートシティについては、様々な社会課題を先端技術を取り入れながら解決するため、「エネルギー」「モビリティ」「ヘルスケア」「防災・見守り」「データ利活用」等の分野で、実証実験等を行いながら実装に向けて取り組んでいます。



あらお海陽スマートタウンのイメージ図

寄附の具体的なメリット

「荒尾市ウェルネス拠点施設」を中心に、多様な先端技術を導入することで未来の社会課題を解決するまちをつくっていくため、企業様としては地域や地方創生に大きく貢献できます。

寄附申出書の事業名選択時は「あらお海陽スマートタウン整備事業およびスマートシティ推進事業」を選択してください。

重点プロジェクト

### 荒尾市ウェルネス拠点施設整備運営事業

(SDGs)関連するゴール



総事業費 4,800,000千円 寄附目標額 10,000千円

- 数値目標
- 一人当たりの市町村民所得… 2019年 2,188千円→2022年 2,245千円
  - 平均自立期間… 2019年 男性78.9年、女性83.8年→2025年 男性79.4年、女性84.3年

「荒尾市ウェルネス拠点施設」は、農漁業の振興と地域経済の活性化、観光施設や防災拠点としての役割を担う「道の駅あらお(仮称)」と全世代の心身の健康づくりや福祉・子育ての中核拠点となる「保健・福祉・子育て支援施設」の複合施設として、「あらお海陽スマートタウン」内に整備します。子どもから高齢者まで全ての人々が、心豊かに健康で快適に過ごせる交流の拠点として整備を進めます。



荒尾市ウェルネス拠点施設のイメージ図

寄附の具体的なメリット

農漁業の振興や子育て、社会福祉事業に取り組む企業様として、企業認知度のアップやブランディングの強化に繋がるというメリットがございます。

寄附申出書の事業名選択時は「荒尾市ウェルネス拠点施設整備運営事業」を選択してください。

●その他の寄附事業に関しましては、最寄りの肥後銀行までお問い合わせください。